



国際力動的的心理療法研究会 第20回年次大会

International Association
of Dynamic Psychotherapy

大会テーマ 力動的的心理療法の危機

Facing Critical Moments: Dynamic Psychotherapy Now

日時:2014年11月21日(金)~23日(日)

場所:郡山市労働福祉会館 〒963-8014 福島県郡山市虎丸町7番7号

大会会長:石川与志也(ルーテル学院大学/東京大学駒場学生相談所)

後援:福島県/福島県教育委員会/郡山市/郡山コンベンションビューロー
ライオンズクラブ心の復興プロジェクト震災復興心理・教育臨床センター
福島復興心理・教育臨床センター

第20回年次大会 大会会長挨拶



フロイトの精神分析に始まり20世紀後半に大きく発展した力動的心理学療法は、現在の日本において、存続の危機に瀕しています。われわれは、この危機を東日本大震災後の予防的・治療的対応において痛感しています。個人の孤立は深まり、愛する能力と働く能力を育み、表現することが難しくなっている現代社会において、身体性を持った治療者との関係の中で、タフな心を鍛え、心の自由と真実を追究する力動的心理学療法の重要性はますます大きくなっています。しかし、今の日本社会には、困難な現実を否認し、人間の心の底力を軽視し、安易な問題解決や経済性を求める風潮が蔓延しています。そのような中において、私はIADP 20周年記念となる今年の年次大会を、力動的心理学療法の文化を再構築する出発点にしたいと願います。フロイトはその人生の最期まで、人間の心の真実を明らかにせんという姿勢を貫き続けました。われわれの使命は、そのスピリットを引き継ぎ、フロイトおよびフロイト以後のアナリストやサイコセラピストによって構築されてきた理論と技法の吟味と精練を行い、日々の臨床における患者・クライアントの方々との協働作業の中で心の自由と真実の追究を実現化してゆくための技法技術の鍛錬と研究を行うことにあると思います。

英語の大会テーマの“Facing Critical Moments”には、力動的心理学療法の危機に、東北の危機に、そして心理学セッションにおける治療的变化と反復の分水嶺となるクリティカルな瞬間に、サイコセラピストとしていかに向き合えるのかという意味を込めました。Critical momentに向き合い、そこで創造的に働くことができるタフなセラピストになるためには訓練が必要です。IADPは、普通の大きな学会とは異なり、年次大会の全プログラムが参加者一人ひとりにとっての訓練の場であり、大

会を通じて個人としても、グループとしても成熟することを目指しています。ぜひとも三日間通してご参加ください。今回の年次大会には、われわれの趣旨に賛同するヴェテランのアナリストやサイコセラピストが国内外から集まってきました。彼らにチャレンジし、彼らから学び、一人ひとりが互いに、そして自分自身にチャレンジする。参加者全員で切磋琢磨し、臨床家としての底力を鍛えるIADPらしい大会にしましょう。

われわれは、この20周年記念大会を、昨年を引き続き福島県郡山市で行います。臨床家として、福島に、東北の危機にいかに向き合い、働くことができるのか。心の危機に働く力動的心理学療法の原点に立ち返り、ここから新しい力動的心理学療法の歴史を作りましょう。若手からヴェテランまで熱い心を持つタフな臨床家の皆様のご参加をお待ちしております。

第20回年次大会大会会長
石川 与志也

大会会長プロフィール

1974年英国ロンドン生まれ バングラデシュ・ダッカにて幼少期を過ごす 国際基督教大学大学院博士後期課程満期退学
専門：精神分析的心理学療法、青年期心理学療法 単科精神科病院心理療法師、国際基督教大学高等臨床心理学研究所助手などを経て、現在、ルーテル学院大学専任講師 東京大学駒場学生相談所非常勤講師 PAS心理教育研究所サイコセラピスト 震災後から、宮城県等においてPTSDの予防・治療活動を行う
主要論文：“On Joke: A Technique of Creating Psychological Safe Space for Schizophrenic Patients”, 「青年期アイデンティティグループ学生相談における可能性」 「心的安全空間測定法」 など

第20回年次大会 大会組織

大会会長 --- 石川 与志也
(ルーテル学院大学/東京大学駒場学生相談所)

大会副会長 --- ラルフ・モロー
(レイノルド・アーミー・コミュニティ病院)

科学プログラム委員会

委員長 ----- 中村 有希 (PAS心理教育研究所)
委員 ----- 橋本 和典 (国際基督教大学)
大橋 良枝 (聖学院大学)
髭 香代子 (PAS心理教育研究所)

大会事務局: PAS心理教育研究所

大会事務局長 ----- 花井 俊紀
広報 ----- 伊藤 裕子
吉田 愛
広報(東北セクション) ----- 足立 智昭
橋本 麻耶
荻本 尚子
荻本 快
田中 令子
高田 毅
植松 晃子
髭 香代子
田中 令子
南 貞雅

会場 -----

受付 -----

会計 -----

国際力動的心理学療法研究会 理事長挨拶

From your President

長い道程

昨年は、「天よ、我にスリーハンドレッドを」、2011.3.11以来の私の思いを掲げて、本大会を郡山で開いた。未だ天の声はなく、被災者は取り残されたまま、一般国民あるいは世界の関心から遠くなっている。未曾有の大震災と称された国内外の驚愕の反応と今なお重く出口なき悲嘆と痛みの中にある被災者の間には、遠い距離ができてしまったままである。

被災から3年、4年と年を追うごとにその溝と距離は深まり遠ざかり、広島、長崎の原爆、沖縄の戦闘被害によるPTSR/PTSD被害が見捨てられた問題がまた繰り返されている。子どもたちの反応は顕著であり、家庭も学校も無力である。スリーハンドレッドの祈りも届かないわれわれのタスクフォースチームは、今や現地派遣臨床員数名で踏ん張っているに過ぎない。この問題の背景に、精神医療、心理臨床、教育臨床、教育現場における災害対応脆弱性が深く広く横たわっている。その問題に、われわれの専門性が深く関わっていることは見過ごせない。それが2年連続で本大会を福島の地で開催することとしたわれわれの危機意識である。

トラウマおよびポストトラウマの雪だるま式傷つきが深まるのは、天災の問題ではない。人災である(Kotani, et.al., 2013)。とりわけ力動的心理学療法、力動精神医学の専門性がこの問題には大きく関わっている、と私自身、深く傷ついている。幼稚園にも学校にもそして職場にも、PTSRおよびPTSDによる多大なストレス下にある子どもたちや大人たちがそれとは気づかず苦しんでいる。それが意識されたところで、助けを求める相手がいない。日常臨床、日常教育の現場に、臨床力あるいは教育力が目に見える形で展開していないのである。そのリーダーシップを取れるのは、PTSRもPTSDも目に見えず意識もされない性質故に、力動精神医療、力動的心理学療法、力動的組織教育の専門家であるはずである。

3年半を越えて、被災者臨床および心理教育にあたりアドヴォカシーを企て続けて来て、我が国に心理学療法の実践専門家がいないかを、いやというほどに突きつけられて来た。これが私の重いトラウマである。われわれは精神療法、心理学療法の普及をどれだけ進めて来たのか。指定大学院制度を押し進め、資格らしきものを多発し、多くのカウンセラを派遣して来たことになっているが、PFA以上の働きは何もないままに彼らも無力感の中に傷ついている。確かな心理学療法の訓練を受けている同志が、後300人いればという願いが虚しい現実、多くのカウンセラーや精神療法家、心理療法家を出して来たはずと思いたい育てる側の歴史を歩いて来たひとりとして、愕然とした思いに陥る。

日本の精神療法そして心理学療法の歴史は、その実力が1970年代の頃まで戻ってしまっているのではないかと思える。いや、その時代の方が臨床現場に力動論が生きていたし、専門議論ができる師や学兄が身の周りにより多くいた実感の方が強い。爾来、心理学療法への関心が薄まり、失われて来たのかもしれない。

裏を返せば、力動的心理学療法、さらには精神分析的心理学療法の効果性と学問的豊かさについての関心を高める仕事をわれわれがなし得なかったのかという厳しい自戒の念に至る。



本大会では、我が国の精神療法および心理学療法のレジェンドをお迎えし、この厳しい現実に向かい合うことから、自戒を再出発への道標に変えて行きたいと強く願うものである。

60年を越えて、PTSDが重く症状化して現れる広島、長崎、そして沖縄の悲惨を、福島に、宮城、岩手に繰り返さないために、われわれはわれわれの専門性を観念の牙城から日常臨床の場に降ろして、成果を出し働ける仲間を改めて厳しく育てなければならない。

本研究会は改めて国際学会としてのアフィリエーション登録を行った。今年大会を機に、力動的心理学療法の日常性を目指した前進を図りたい。

国際力動的心理学療法研究会理事長
小谷 英文, Ph.D., CGP

理事長プロフィール

1948年広島県広島市生まれ 博士(心理学)
専門：精神分析的心理学療法 困難患者心理力動/技法
略歴：広島大学助手、アデルファイ大学高等臨床心理学研究所客員研究員、New York Univ. Post-Graduate Medical School 集団精神療法過程終了 広島大学助教授、国際基督教大学教授 同高等臨床心理学研究所創立所長を経て、現 PAS心理教育研究所 創立理事長
学会役職：国際集団精神療法集団過程学会元理事 集団分析的心理学療法国際協会創立教授
復興臨床オーガナイザー：ライオンズクラブ心の復興プロジェクト：震災復興心理・教育臨床センター(仙台) 福島心の復興心理教育臨床センター(郡山)
主著：『Creating Safe Space through Individual and Group Psychotherapy』 『現代心理学療法入門』 『ダイナミックコーチング』 『ガイダンスとカウンセリング』 『集団精神療法の進歩』

ゲスト・ファカルティ紹介



牛島 定信, M.D.
九州大学医学部卒業。国立肥前療養所医長、福岡大学医学部教授、東京慈恵会医科大学教授を経て、三田精神療法研究所長。日本精神分析学会元会長、日本森田療法学会元理事長、日本サイコセラピー学会前理事長、日本児童青年精神医学会元理事長他。



北西 憲二, M.D.
1970年東京慈恵会医科大学卒業。1972年から1974年までスイス・パーゼル大学精神科・うつ病研究部門に留学。1979年東京慈恵会医科大学第三病院精神神経科科長(森田療法室に勤務、入院森田療法を主として行う)。1989年東京慈恵会医科大学精神医学教室助教授。1995年成増厚生病院副院長を経て、1996年森田療法研究所・北西クリニックを開設し現在に至る。2001年4月-2011年3月まで日本女子大学人間社会学部社会福祉学科教授。



鎌 幹八郎, Ph.D.
教育学博士(京都大学)、臨床心理士。広島大学名誉教授。財団法人広島カウンセリングスクール理事長。社団法人日本心理臨床学会理事。



ハロルド・スターン, Ph.D.
精神分析家。集団精神療法家。個人開業。東ヨーロッパ精神分析研究所(ロシア)客員教授を始めとし、世界各地で精神分析の訓練に携わる。1970年、Hyman Spotnitzらと共に、"Center of Modern Psychoanalysis Studies"の設立に携わる。主な著書に"The Use of the Couch in Psychotherapy"。



写真は、昨年の「アゴラ：危機における人と集団の底力」のオープニング公演の様子

ファカルティ紹介



セス・アロンソン, Psy.D., CGP, FAGPA

9.11における子どもや青年のPTSD対処の指揮をとる。代表的な著書『Group Treatment of Adolescents in Context』(Saul Scheidlinger, Fady Hajalと編著)。ウィリアム・アロンソン・ホワイト研究所(ニューヨーク)フェロー/ファカルティ/トレーニング・スーパーバイジング・アナリスト、マンハッタン精神分析研究所ファカルティ・スーパーヴァイザー、ノースウェスト精神分析センター(シアトル・ポートランド)ファカルティ、ロングアイランド大学客員教授。



ラルフ・モーラ, Ph.D., MSS, CAIA

米海兵隊のPTSD治療のエキスパート。アデルファイ大学高等心理学研究所にて学位取得後、アメリカ、ヨーロッパ、日本等において臨床活動を行ってきた。現在、レイノルド・アーミー・コミュニティ病院、クリニカルサイコロジスト。



能 幸夫

国際基督教大学教養学部卒業。湘南病院相談室室長。PAS心理教育研究所研究部ディレクターを経て、PAS心理教育研究所所長。国際力動的心理療法研究会(IADP)理事。日本集団精神療法学会前理事。専門は、思春期・青年期から成人の精神分析的な心理療法。研究領域としては、心理療法初期過程研究、統合失調症や躁うつ病などの精神病水準の個人心理療法および集団精神療法の臨床研究など。PAS心理教育研究所で精神分析的な心理療法の専門家訓練にも積極的に携わる。



橋本 和典, Ph.D., CGP

東京大学大学院教育学研究科修士課程を経て、国際基督教大学大学院博士後期課程修了。博士(教育学)、心理療法家(臨床心理士、全米公認集団精神療法士)。現、国際基督教大学准教授、PAS心理教育研究所非営利事業部担当理事、東京大学駒場学生相談所非常勤講師。国際力動的心理療法研究会事務局長。専門は、精神分析的な心理療法および集団精神療法。震災後からPTSDの予防・治療活動を行い、2013年9月に福島復興心理・教育臨床センターを開所。同代表。



橋本 麻耶, M.A.


慶應義塾大学で教育学専攻を卒業し、国際基督教大学大学院博士前期課程修了。臨床心理士。現在、児童養護施設で育つトラウマを抱えた子どもの治療、専門学校にて青年期の心理療法を実施。PAS心理教育研究所兼任セラピスト、集団精神療法を基盤とした技法の開発、個人精神療法の実施。国際力動的な心理療法研究会副主任事務局長。



伊藤 裕子, M.A.

お茶の水女子大学人間生活学科発達臨床学講座卒業。国際基督教大学大学院博士前期課程修了。臨床心理士。現在、PAS心理教育研究所兼任セラピスト。法政大学学生相談室心理カウンセラー。精神科クリニック恵比寿山の診療所心理主任。

第20回年次大会 大会プログラム一覧

2014年11月21日(金): 大会1日目	2014年11月22日(土): 大会2日目	2014年11月23日(日): 大会3日目
	<p>9:00-15:00: 訓練プログラム 心理療法の知識・態度・技術を磨く訓練ワークショップ (ワークショップ概要は8ページをご確認ください。)</p>	<p>10:30-12:00: 事例検討「レジェンドからのギフト (Gift from the Legends)」 スーパーヴァイザー: ・牛島 定信(三田精神療法研究所) ・鎌 幹八郎(広島大学名誉教授) ・セス・アロンソン(ウィリアム・アランソン・ホワイト研究所 ファカルティ) ・ラルフ・モーラ(レイノルド・アーミー・コミュニティ病院 クリニカルサイコロジスト) アロンソン先生、モーラ先生の事例検討には通訳が付きまます。</p>
<p>13:00-13:20: 開会式</p> <p>13:30-14:20: 大会会長講演 「力動的心理療法とジョーク」 講師: 石川 与志也(第20回年次大会大会会長)</p>	<p>12:00-13:00: ランチタイム</p> <p>ワークショップ・タイトル ・困難患者の治療に対する試み 治療理論における攻撃性の意味 ・精神分析的な心理面接法: 精神分析的な心理療法の導入と展開促進技法 ・The Challenge of Helping Children and Adolescents and Their Families After Traumatic Loss ・PTSD の治療におけるレジリエンス(心の弾力性) ・応答構成ワークショップ</p>	<p>12:00-14:00: ランチタイム・理事会 / 総会</p>
<p>14:30-15:30: エドワード・ピニー記念大会基調講演 「力動的心理療法の危機」 講師: 小谷 英文(IADP 理事長/PAS 心理教育研究所理事長) 第一報では、基調講演を吉松和哉先生からいただく予定でしたが、先生の急なご事情で、先生の流れを汲む形でオーガナイザーが引き継ぐことになりました。</p>	<p>15:15-16:45: 公開スーパービジョン “Resolving Your Impasse” 講師: ハロルド・スターン(個人開業精神分析家)</p>	<p>14:00-16:00: 全体ケースセミナー 講師: 小谷 英文(IADP 理事長/PAS 心理教育研究所理事長) スーパーヴァイザー: ・小谷 英文(IADP 理事長/PAS 心理教育研究所理事長) ・ラルフ・モーラ(レイノルド・アーミー・コミュニティ病院 クリニカルサイコロジスト)</p>
<p>15:40-18:45: 20周年記念ダイアローグ 「力動的心理療法の危機 - 基調講演を受けて」 オーガナイザー: 小谷 英文(IADP 理事長/PAS 心理教育研究所理事長) シンポジスト: ・牛島 定信(三田精神療法研究所) ・鎌 幹八郎(広島大学名誉教授) コメンテーター: ・北西 憲二(森田療法研究所・北西クリニック)</p>	<p>17:00-19:30: 市民公開 災害臨床プログラム 「災害臨床中長期の課題」 司会: ラルフ・モーラ(レイノルド・アーミー・コミュニティ病院 クリニカルサイコロジスト) 発題: 宮城より 足立 智昭(宮城学院女子大学 教授/震災復興心理・教育臨床センター代表) 福島より 橋本 和典(国際基督教大学 准教授) 中国より 中国被災地復興心理学チーム 仙台より 平野 幹雄(東北文化学園大学 准教授) コメンテーター: 牛島 定信(三田精神療法研究所) ハロルド・スターン(個人開業精神分析家) セス・アロンソン(ウィリアム・アランソン・ホワイト研究所 ファカルティ) ゲスト・コメンテーター: ヨタム・ポリツェー(IsraAID アジア地域責任者)</p>	<p>16:00-16:30: 振り返りと閉会式</p>
	<p>20:00-22:00: 懇親会</p>	 <p>昨年の全体ケースセミナーの様子</p>

訓練プログラム ワークショップ紹介

困難患者の治療に対する試み 治療理論における攻撃性の意味

トレーナー：ハロルド・スターン(個人開業精神分析家)

本ワークショップでは、最終的な治療に導く可能性のある様々な治療方略を理解し、首尾良く実践することを可能にするアプローチの基礎となる具体的な理論とそれに関連する技法について論じる。

若い頃の経歴として、Sigmund Freud は精神病の治療に強い関心があったことが知られている。しかしながらその後、彼は精神病、統合失調症そして自己愛の部類に通例として入ってしまうその他の様々な人格障害者の治療の方法として精神分析を用いることに対してとても悲観的になった。フロイトが彼らの治療に対して悲観的になったのは、このような障害を持つ人々にとって、セラピストとの間で対象転移を形成することができないことを発見したからである、つまり対象というのは彼にとって外的(外側にある)というより内的(内側にある)なものであるためである。

後年、私の師である Hyman Spotnitz は、相当量の研究の後に、このような困難患者に対する治療の方法を構築した。それは、自己愛転移を、自己愛神経症の体系的な解消を転回する基礎として用い、そしてそれが最終的には患者の治療を成功に導くというものである。

この治療の最終段階を成就させ、完全な治癒をもたらすには、われわれは一連の新しい特別な抵抗と転移を活用しなければならない。この方法は、われわれ自身が、自己愛的な転移、そしてセラピストの個人的な体験も含む自己愛的な逆転移のプロセスになじむことが求められる。

治療は様々な段階を通して前進を引き起こす。治療が展開するにしたがってセラピストは抑圧された患者の攻撃性を患者自身にとって安心感が持てる形に導く。これは大抵の患者にとって初めてのことであり、またこれによってすべての思いや感情、記憶を言語化し、前進的なコミュニケーションにつなぐことが可能になる。これらの段階はワークショップの中で説明する。

このワークショップは日英通訳付きで開催されます。

精神分析的面接法：精神分析的な心理療法の導入と展開促進技法

トレーナー：小谷 英文(精神分析的システムズ心理療法師)

キーワード：クライアントになること、精神分析的動機づけ、自己と自我の相互作用力動、三分論面接技法、エディプス面接技法

参加者：力動的な心理療法初心者、訓練生、ベテラン

方法：教授 + 体験

目標：心理療法を始め効果的に展開する時に行き詰まるポイントに関わるあなたのミステリーを解き明かす。その技術的に行き詰まりを解消する特定の面接法の習得。

The Challenge of Helping Children and Adolescents and Their Families After Traumatic Loss

トレーナー：Seth Aronson (Faculty, William Alanson White Institute)

In this workshop, we will explore the challenges of helping children, adolescents and families after a traumatic event. The events in Japan of 3/11 were devastating on the individual, family, community and national levels. The effects are far reaching and require thoughtful intervention. Any trauma involves a loss, and for children, such losses may include, loss of a parent or family members, home, school, and sense of security necessary for secure attachment. Treatment models must also take into account developmental differences, history of loss, separation and attachment prior to the traumatic events.

We will discuss the various components necessary for intervention:

- crisis intervention focusing on immediate needs
- individual therapy that focuses on coping strategies, dealing with the losses incurred, repairing attachment
- group therapy to consolidate peer support, create cohesion, impart information
- school and community based intervention to address ongoing support for traumatized adults, teachers and parents and help them with the follow up that is necessary

We as mental health professionals can use our expertise and knowledge so that these children, adolescents and families can be helped to address trauma and grief reactions, while we help to restore stability, increase communication and promote awareness with them- and the communities around them- and in this small way, instill hope.

このワークショップは英語で開催されます。

PTSD の治療におけるレジリエンス(心の弾力性)

トレーナー：ラルフ・モーラ(レイノルド・アーミー・コミュニティ病院 クリニカルサイコロジスト)

このワークショップではレジリエンス(心の弾力性)と心的外傷後ストレス障害(PTSD)の要件について検討する。レジリエンスは、今現在PTSDに苦しむ人においても、習得できるものであると筆者は提言する。さらに、PTSD というのは慢性的な状態ではなく、身体的にトラウマを受けた状態を精神的に解消しようとする試みとして、通常で自然な自己治療の過程であることも示したい。レジリエントな人(心の弾力性のある人)を、よりリスクが低い群とするのは、彼らは不安に対処する能力が高く、トラウマに直面しながらも希望を維持する力があり、起きたことに対して意味を見出す能力があるためである。実際、レジリエントな個人は現在の苦難から脱却し、個人的、社会的そして宗教的価値に基づく、より広い現実の文脈にそれを置き直すことができる。これは、レジリエントな個人がトラウマを受容することができるということよりも、外傷が起こるということは他のことが起きうる可能性と同等であるということを受容し、その意味は、その個人が外傷を通常のこととして捉えることができ、トラウマによるさまざまな反応を受け入れ、有害な効果を制限するために行動することができることと共にあるのである。それから筆者は、PTSD 治療の目標をいくつか提示し、併せてそれらを達成するための具体的な方略も提示する。

このワークショップは日英通訳付きで開催されます。

応答構成ワークショップ

トレーナー：能 幸夫(PAS 心理教育研究所 所長 / 湘南病院相談室 室長)

橋本 麻耶(PAS 心理教育研究所)

伊藤 裕子(PAS 心理教育研究所)

応答構成訓練のねらいは“発話と傾聴の過程で自己を拡張、自我が自由に動く空間を拡げる基本作業を持って、自分自身の内的世界と相手との交差する「間(あいだ)」の領域に安全空間の生成と保持の営みを学習し、身につけること(小谷, 2013)”である。

セラピストとして捉えた「今ここで」のミクロの瞬間にクライアントのイントラの世界の入り口がある。話している「こと」をマクロ的に理解するだけでなく、話しながらも蠢いている「もの」に関心を持ち、共にいることができるような対話の空間を作り、クライアントのもつ内的世界の力動に参加しながらセラピストとしての内的体験に率直でいることがどれくらいできているだろうか。臨床家が臨床家であり続けるための問いである。

応答構成の訓練では、面接のある瞬間を切り取り、セラピストとして捉えた情報とエネルギー、クライアントの感情、セラピストの感情を取り出し、自己空間そしてより広いグループの空間の中で吟味検討することでセラピスト自我を鍛錬する。初心からベテランまで臨床経験を問わず、一日体験道場へ入門あれ。

事例発表者募集

本大会で事例を呈示し、検討できる枠は2つあります。

1) 11月22日(土) 15:15 ~ 16:45

Harold Stern 先生による公開スーパービジョン：“Resolving your impasse”

2) 11月23日(日) 10:30 ~ 12:00

4名のレジェンド・セラピストによる事例検討：「レジェンドからのギフト(Gift from the Legends)」

1) について

治療で困っていること、セラピストとして難くなるポイントを解決していくセッションです。発表者には5分から10分でその困難さをプレゼンテーションしていただきます。5人から10人、発表者を募集します。発表は日本語・英語、いずれかをお願いします。

2) について

レジェンド・セラピストからスーパービジョンを受けたい方を募集します。時間は1時間半で1事例の呈示となります。以下のいずれかをキーワードとする事例を歓迎します。

牛島定信先生：人格障害・行動障害(自傷・暴力)・対象関係論・児童/青年/成人

鐘幹八郎先生：力動的心理療法・夢分析・アイデンティティ形成・青年

Ralph Mora 先生：トラウマ・児童/青年・家族

Seth Aronson 先生：集団精神療法・非行・児童/青年

申込手続

事例発表希望者は発表希望の旨を申込書にご記入ください。こちらより発表要旨要綱をお送りしますので、ご記入いただき、郵送またはメールにて事務局に提出して頂きます。提出期限は2014年8月30日(土)です。選定委員会が発表要旨の審査を行い、発表の可否を9月20日(土)までにご連絡致します。

市民公開シンポジウム

日時：2014年11月22日(土)：大会2日目 17:00-19:30

会場：郡山労働福祉会館 大ホール

震災関連死が、福島で1700人を超えました。このことをどう理解し、対策を打てるのでしょうか。睡眠が浅い、酒が増えた、身体が重い、物忘れがひどい。暗闇を怖がり、知らぬ間に気力が途切れる子どもたちをどう理解し、どう愛することができるのでしょうか。あらゆる人災、自然災害後の心の復興が進まないのは明確な理由があります。それは、心の知と、それを実行する実践の知恵と、そして、それを共有して働き合う協働ネットワークが作れないことにあります。

今回は、昨年に引き続き、福島県郡山市を会場に、さまざまな人災、自然災害後の人の心の復興課題に取り組んできたエキスパートが集い、市民の方々と共に、大災害から数年を経た中長期の課題を明らかにするシンポジウムを開催します。3.11後を生きる当事者として、そして、これからの災害に備えて、一人一人に何ができるのか。政治家の先生に、行政の方に、ジャーナリストに、あらゆる専門家に、親御さんに、まだまだできることはたくさんあります。大震災後の福島、宮城、2008年の四川大地震後の心の復興リーダー、米国9.11テロ、戦争PTSDの対応してきた専門家に、日本の精神分析をリードしてきたトップアナリストを加えて、心の復興を勝ち抜く一歩を進めてみましょう。皆さんの積極的な参加をお待ちしております。

学会プログラムを市民公開します。どなたでも参加いただけます。当日会場にお越しください。

講演者などの情報は、P6,7の大会プログラム一覧でご確認ください。

アクセス

大会会場

郡山市労働福祉会館

〒963-8014 福島県郡山市虎丸町7-7

(JR郡山駅より徒歩15分。福島交通バス「第二中学校」より徒歩約2分)

主なアクセス

東京から：東北新幹線で約1時間20分
東北道で約3時間

仙台から：東北新幹線で約40分
東北道で約1時間30分

山形から：東北・山形新幹線で約1時間20分
山形道・東北道で約1時間50分

新潟から：高速バスで約2時間40分
磐越道・東北道で約2時間

大阪から：東海道新幹線・東北新幹線で約4時間30分
飛行機で約1時間15分・連絡バスで約45分

青森から：東北新幹線を乗り継いで約3時間

札幌から：飛行機で約1時間20分・連絡バスで約45分



大会事務局からのお知らせ

大会参加手続き

申込書にご記入の上、郵送または FAX で大会事務局(下記参照)までお申込みください。申込書は、国際力動的心理療法研究会 (IADP) ホームページからもダウンロードできます。

IADP ホームページ : <http://www.iadp.info/>

参加申込み締切り : 10月31日(金)

参加費

非会員 : 21,000 円

会員・学生 : 18,000 円

懇親会費 : 5,400 円

IADP 会員の方は年会費(1,000 円)をお支払いください。

宿泊に関して

期間中、他学会が開催される影響で郡山市内の宿泊施設の予約が埋まっている状況です。事務局では、21(金)、22日(土)の宿泊施設について、東横イン郡山(<http://www.toyoko-inn.com/hotel/00009/>)を21日60部屋、22日80部屋確保しています。ぜひご利用下さい(1泊朝食サービス付き5,724円)。部屋数が限られていますのでお早めにお申し込み下さい。

ご希望の方は申込用紙のホテル希望欄にチェックをつけて下さい。

申込は先着順とさせていただきます。

部屋には喫煙室と禁煙室がございます。喫煙室・禁煙室の希望は参加申込用紙の希望欄に丸をつけてください。こちらの希望も先着順とさせていただきます。先にどちらかが埋まった場合は、ご希望に添えない場合もございますがご了承ください。

大会事務局

国際力動的心理療法研究会 第20回年次大会事務局長:

花井 俊紀(PAS 心理教育研究所)

大会事務局: 〒153-0041 東京都目黒区駒場 2-8-9 PAS 心理教育研究所内

TEL & FAX: 03-6407-8201

学会ホームページ: <http://www.iadp.info/>

メールアドレス: iadp@iadp.info